

## はじめに

現在、我が国の教員研修においては、キャリアの異なる教員等による「学び合いのコミュニティ」の形成が志向されており、独立行政法人教職員支援機構の御指導により、各地の教育センター、大学等の間で更なる連携が進められているところです。こうした連携を通して、教師の学びの姿を子どもたちの学びの相似形へと転換する取組が、幅広く共有されるものと期待しております。

昭和 55 年 3 月発行の本センター研究紀要に、次のような一節を見つけました。「所員の勤務経験は、幼児教育・小学校・中学校・高等学校に及ぶ。このタテの構成は、幼・小・中・高の一貫性を考察していく上で有利であろう。また、ヨコの組織は、教科研究室、教科外研究室、教育相談・進路指導室(※特別支援教育を含む)、理科研究室、技術・家庭研究室で成り立っている。これらは、複数合同の多彩な研究を可能とする。(白石 信一 教科研究室長)」

本センターは、上記の組織を基本的に受け継ぎ、現在、研修・研究・教育相談・学校支援の 4 事業を通して、各学校を支援しております。研究事業については、教育行政上の施策をより実効的なものにするための方策の開発や、学習指導要領の理念を学校教育の場で具現化していくための仮説検証、喫緊の教育課題の解決に向けた提案等に取り組んでまいりました。本研究紀要に集録の研究は、センター所員の協働で進めてまいりましたが、その過程で、センター自身が「学び合いのコミュニティ」であるとの感を強くいたしました。センターの研究は、学校の支援という本来の目的に資すると同時に、各学校や地域における「学び合いのコミュニティ」づくりに向けた気運の醸成にもつながるものと考えています。

この度、本年度の研究の成果を、「教育研究紀要(第 91 集)」として発表させていただき運びとなりました。研究に際し御指導・御協力を賜りました皆様に厚くお礼を申し上げますとともに、県内外の教育関係者の皆様方の率直な御意見御教示をお寄せいただきますようお願い申し上げます。

令和 7 年 3 月

愛媛県総合教育センター所長 中島 康史